

No	提 案 名	提案団体名	
		代表者氏名	所 属
2	自治会における女性の活動の促進	放送大学栃木学習センター 地域研究会	
		大島 富子	放送大学 教養学部
		指導教官 氏 名	作新学院大学 中島 洋行

1 提案の要旨

自治会は、地域の住民にとって、最も身近な組織である。それは、地域住民相互の連帯感を育て、地域の福祉・環境・防災・防犯など地域の様々な課題に取り組みながら、まちづくりを進めていく住民の組織とされている。具体的には、(1)防犯灯の設置・管理、交通安全活動、防災・防犯活動等の安全な生活を守る活動、(2)ごみステーションの管理、地域内清掃などの地域環境整備活動、(3)祭りや盆踊り、文化祭、体育祭などの親睦・交流活動、(4)高齢者対策事業、各種募金活動への協力などの地域福祉活動、といったことを担っている。そして、自分たちの住む地域をどんな地域にしていくか、そのために何をするのか決めるには住民の合意が必要であり、自治会への加入促進活動も行われている。(宇都宮市 新任自治会長研修会資料より抜粋)

当研究会メンバーも、それぞれ自治会活動に参加してきたが、行事の際、「自治会の役員の中に女性が1人も入っていないくて変だよ」という女性の声を耳にしたり、提案に取り合ってもらえないなど、様々な苦い経験をしてきた。こうした経験から自治会の活動には様々な問題があるのではないかと考えていた。特に女性の意見が積極的に取り上げられていないと感じている。

一方、第3次宇都宮市の男女共同参画行動計画の基本目標2では、さまざまな分野における男女共同社会の実現を目指し、具体的には「男女が、社会の対等な構成員として、特定の分野に固執することなく、男女がともに活躍できる分野を拓げ、政策や方針などの意志決定の場に参画することが必要です」として、意志決定の場への女性の登用促進の施策を展開している。その成果目標は、審議会等委員に占める女性の割合を平成24年3月現在の25.1%から平成29年度の目標30%へ、自治会長に占める女性の割合を平成24年4月現在の3.8%から平成29年度目標の7.6%へとしている。これを地域活動の主体となっている自治会に当てはめると、約790ある宇都宮市の自治会のうち、女性自治会長の数は、約30自治会に過ぎないということである。また、当研究会で入手した平成25年4月現在の自治会総会資料7件の調査結果では、女性が会長・副会長・書記・会計・監事の役員に占める割合も約14%にすぎないこともわかった。

当研究会では、こうした現状に対し、会長は副会長以下の役員経験者から選任されていること、等から自治会の役員に占める女性の割合の目標を30%以上に設定した。そこで、女性の人材活用について男性自治会長はどのように考えているのか、女性が会長になっているところでは活動の活性化に対し、どのような効果があったのか、男性・女性の自治会長の双方にインタビューして自治会の現状を分析した。

その結果、男性自治会長も女性の活躍への期待は大きいこと、また、女性自治会長の取材を通して、女性が自治会長になることで(1)豊かな生活者目線で気付きがあり、新しい視点での取り組みが生まれた。(2)親しみやすく、話しかけやすいので、みんなが意見を出しやすくなった、などの効果もたらされることがわかった。それを検証すべく、女性自治会長の活動の現場を訪問した結果、その良さと活動活性化の効果を確認できた。また、自治会長の長期歴任が続く背景には後継者育成の立ち遅れがあることや、地域社会の活性化を促す人材を養成するうえで、シルバー大学校との連携・協力も必要であることがわかった。さらに兵庫県小野市の事例では、自治会役員女性参画推進事業補助金制度を創設し、女性が自治会活動に参画しやすい環境を整備するためにインセンティブを与え、効果を上げていることもわかった。

以上の調査結果から、目標達成のための課題は、(1)自治会活動活性化における女性役員の効果をいかにPRするか、(2)新しい視点を持った後継者をどう育成するか、(3)シルバー大学校との連携・協力、の3点であると考えます。そして、これらの課題に対する施策として、1つ目は、宇都宮市自治会連合会主催の新任自治会長研修会、等において、女性自治会役員の活動の効果を積極的にPRすることである。効果を具体的に述べ、新任の自治会長に情報提供し、場合によっては現地を視察してもらい、翌年度以降の役員編成に反映してもらう必要がある。これによって、新しい視点を持った女性役員の割合を徐々に増やすことが可能となる。と同時に組織の若返り、後継者選びの候補対象の拡大、自治会における男女共同参画事業の進展、等の間接的な効果も期待できる。

2つ目の施策は、女性役員の割合を増やすための補助金制度を創設し、時限付きでインセンティブを提供することである。小野市ではすでに効果が出始めている。

3つ目の施策は、シルバー大学校との連携・協力の1つとして、自治会の地域活動を紹介する生きたカリキュラムを使うことで地域活動参加への動機付けを高めることである。その際、女性自治会長の所属自治会の活動を教材として使用してもらうことによって、男性には潜在的な意識を変えてもらうこと、女性には自分も参加出来そうだという感触を持ってもらうことが期待できる。

2 提案の目標

地域を良くしようと考えているのは、男も女も同じである。男女がそれぞれの良さを生かし、自治会役員を担うことで、新しい視点での取り組みが生まれ、地域での活動はより活発になる。(兵庫県小野市役所ホームページより)

そこで、地域にもっとも密着している自治会活動に対し、次のような女性の特徴を生かすことはできないかと考えた。

- (1) 豊かな生活者目線で気付きがあり、男性とは違った視点を持つ。
- (2) 親しみやすく、話しかけやすい。
- (3) 根気があり、粘り強い。
- (4) 子育てなどを通して地域における人との繋がりがある。
- (5) 介護などの知識が豊富にあり、高齢者支援、防災・減災、子どもの見守り、などへの細やかな心配りと実行力がある。

これらの特徴は、今後の自治会活動の活性化のうえで重要な要素であると思われる。社会生活上の経験の違いからか、女性には「企画やビジョンづくりなどは苦手だ」と言う人も少なくないが、男性役員がサポートすることで新しい視点での取り組みが可能となる。このような男女共同参画の姿を達成するために、女性役員の割合を30%以上に増やすことを提案する。

3 現状の分析と課題

1) 研究会の経験

当研究会のメンバーも、30年以上、それぞれ自治会活動に参加して次のような苦い経験をしてきた。

- (1) 20年ほど前、子供会育成会活動時、男性自治会役員から、「子供会育成会は自治会のお手伝いだから、私達の言うとおりにしてください」と言われた。
- (2) 最近では、自治会の行事の時、「自治会の役員の中に女性が1人も入っていないくて変だよ」という女性の声を耳にする。
- (3) 自治会総会の席で「意見箱を作ってください」と提案したが、後日の役員会で採用されなかった。不採用理由は説明されていない。

(4)「班長会議では、会長は聞く耳を持たない、上から押さえ込んでしまうので発言しても無駄。そのこともあって、発言・提案はほとんどない」と元班長から聞いた。
 このような経験から、自治会の活動には様々な問題があるのではないかとと思われる。特に自治会の執行部における女性の割合が少ないこともその要因ではないかと考えた。

2) 自治会役員に占める女性役員の割合の調査

当研究会が入手した7自治会の役員名簿から会長・副会長・書記・会計・監事の男女別役員数を調べた結果は次の通りであった。(注)自治会によっては、区長・部長なども役員とするが、本資料では上記5役のみで整理した。

自治会	会長		副会長		書記		会計		監事		役員総数	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
S	1		1		1		1		2		6	0
I	1		1					1	2		4	1
N	1		4				2		2		9	0
T		1	2	1			1		2		5	2
O		1	2		1		1		2		6	1
F	1		2					1		1	3	2
W	1		2		会長兼		1		1		5	0
役員数合計	5	2	14	1	2	0	6	2	11	1	38	6

男性 約86%、女性 約14%

調査結果要約

- ・ 調査した7自治会のうち、女性役員ゼロが3自治会あった。
- ・ 役員総数44名のうち男性役員の38名に対し、女性役員は6名で全体に占める割合は、約14%であった。(部長、区長など執行部以外の役員を含めても、女性役員は約20%)
- ・ この割合は第3次宇都宮市の男女共同参画行動計画の基本目標2の指標となっている、審議会等委員に占める女性の割合(現状値の25.1%)に比べ、いずれも低い割合であり、自治会活動に女性の意見が反映されにくい要因の1つと考えられる。

3) 自治会の現状の分析と課題・・・自治会長のインタビュー

(1) 目的

女性の人材活用について男性自治会長はどのように考えているのか、女性が会長になっているところでは自治会活動の活性化に対し、どのような効果があったのか、などを男性・女性の自治会長の双方にインタビューして現状を分析し課題を探ることにした。

(2) 調査の概要

- ・ 実施期間と回数：平成25年9月6日～10月11日 計7回
- ・ 会場：公民館、市民センター、コミュニティセンター、喫茶店
- ・ 実施要領：調査の目的を説明したのち、インタビュー前日までに投げかけていた以下の質問項目に沿って自由に話してもらい取材した。



(3) 質問項目

1. 自治会長就任のいきさつ、会長歴
- 2-1：(男性自治会長用) 会長就任後、重点的に取り組んだこと
- 2-2：(女性自治会長用) 会長が女性になったことで変化したこと

3. 会長の目から見た自治会運営上の問題について
(組織、会則、総会資料、女性の意見の吸い上げについて)
4. 上記3の改善事例について
5. (男性自治会長用) 女性の人材活用について
6. 今後の課題と抱負

(4) インタビュー結果の概要

*紙面の都合で、質問項目の2-1、3、4については調査結果を省略。

－ 1. 質問項目 1. 自治会長就任のいきさつ、会長歴

調査結果要約

- ・ 班長から会長になった人が2名、その他6名は会計や副会長を経て会長になっている。
- ・ 女性会長3名のうち、2名が子供会育成会会長の経験がある。
- ・ 会長歴は、持ち回りの1年目の人から11年目の人まで分布している。
- ・ 6年目以上の長期歴任が半数以上を占めている。
- ・ 今後も会長を続けるかについては、会則で1年交代とする1名を除き、2～4年目の2名は継続の意向、5～11年目の5名全員に辞めたい意向が見受けられた。ただし、後継者が見つからないことから、続けざるを得ない姿も見られた。このような場合、新しい視点での取り組みは難しいのではないかという疑問が残った(前年を踏襲?)。

－ 2. 質問項目 5. (男性自治会長用) 女性の人材活用について

A氏:

- ・ 「基本的な考え方として、女性が入らないと成り立たない、女性はまちづくりの要だ」と考えている。
- ・ 民生委員や福祉協力員は、女性のほうが向いている。
- ・ 女性主体のクラブの活性化が必要である。
- ・ まちづくり協議会の管理運営委員会の中では、委員25名のうち10人を女性が占める。

B氏:

- ・ 役員会は会長以下18名で構成し、うち、いつも出席する女性が8名。
- ・ 一般に女性は責任感が強く、細やかさがある。
- ・ 年をとると男性より女性の方が活躍してくれる。年代にあった活動・活躍の場・参加できる場(チャンス)を提供していく必要がある。

C氏:

- ・ 女性の問題だと思う。お父さんの名前ではなく、お母さんの名前でやって欲しい。女性が入ることは絶対必要だ。実際、細やかさなども大切だ。代理でなく、女性が手を挙げてやって欲しい(=主体的にやって欲しい)。

D氏:

- ・ 婦人部は休眠状態である。
- ・ 女性に限らず、意見の吸い上げは少ない。

男性自治会長4人の意見要約

- ・ 女性が入らないと成り立たない等、自治会活動における女性の活躍を期待している。
- ・ 一般に女性は責任感が強く、細やかさがあると指摘している。

－ 3. 質問項目 2-2 : (女性自治会長用) 会長が女性になったことで変化したこと

Eさん:

- ・ 自治会長になったことによって、お年寄りと気軽に声をかけ合うようになり、またみ

んなからも話しかけられるようになった。

- ・ 自治会長は、地域に住む人のつながりが大事と考えており、親しみが増した。
- ・ 整理されていなかった公民館を整理整頓して、不要なものを処分し、使いやすくした。
- ・ こまめに地域を見回るようになった。(例、道路補修の対応)

Fさん：

- ・ みんなが意見を言いやすくなった。
- ・ 役員同士がよく協力し合うようになった。
- ・ 自治会員名簿の広告を取りやめた(名簿悪用の予防)
- ・ 老人会は、男性自治会長の時からあったが、人が減って消滅しかけていたものを平成22年に立て直した。60代の男女が入ってきて活性化した(例、週1回わいわい喫茶：午後2時間実施、有料50円飲み物お菓子付き、ボランティアの活用)。
- ・ 愛好会の発足(会員の趣味と親睦、健康づくり。平成18年より)
ウオーキング、バッククッキング、コーラス、カラオケ、輪投げ、グランドゴルフ、太極拳、子ども空手、ヨガ、健康体操、旅行、等。
- ・ ふれあい会の実施(民生委員・福祉協力員と協力し、65歳以上の独り住まいの人・75歳以上の人を対象にした交流会)を年9回実施。

Gさん：

- ・ 役員会を週1回(土曜日)開催。→役員の風通し、コミュニケーションが良くなった。
- ・ 公民館に意見ボックスを設置した。
→アンケート、バス旅行申込書の回収、防犯灯の状態など、情報の把握が容易になった。
- ・ 就任当時問題になっていた汚水下水処理場問題を4年かけて解決した。
- ・ ゴミステーション、ポスター掲示版の改善。
- ・ 公民館の使い勝手を改善して、人が集まりやすくなった。
(例、キッチン、トイレ、棚、カーテン、座布団、エアコン、入口のスロープ、自転車置き場、トイレの自動消灯、等)
- ・ 市有地の草が生い茂り苦情が出ていたが、3年かけてきれいな花壇に整備した。
- ・ 東公園、西公園にも花を植えた。
- ・ 役員会の議事録を具体的に書くようにした。
- ・ バス旅行の参加者が増えた(1台→2台)。
- ・ 広くなったキッチンを利用して料理教室を開いた(自分で企画)。
- ・ 女性の意見の吸い上げの事例として、役割が固定化していたものを変えた(例：料理当番が特定の班に固定化され、不満の温床になっていたものを輪番制にした)。

女性自治会長3人の意見要約

- ・ 女性会長が誕生して、地域住民から親しみをもたれ、みんなが意見を言いやすくなった。
- ・ 以前にも増して、役員が協力し合うようになった。
- ・ 公民館を整理整頓し、不要なものを処分し、使いやすくした。
- ・ 公民館をリフォームし、使い勝手を良くしたら利用者が増えた。

ー4. 女性会長所属の自治会訪問

当研究会のインタビュー結果、女性会長が所属する自治会では活動が活発になったと説明を受けた。それを検証するため、1つの自治会を訪問した。

- ・ 訪問先：岡本台ハイツ自治会、 訪問日：平成25年10月15日

・ 具体例：



玄関入口の意見・連絡箱

・・・意見の吸い上げも可能になった



男子・女子のトイレ入口を分離

・・・利用しやすくなった



廊下の壁を取り払い、手前にあった事務室をキッチンに統合し、広くなった

・・・会議・料理教室も可能になった



(上段) 防火水槽のある空き地：草が生い茂る

(下段) 整地し、花壇へ(写真は整地後)

・・・苦情は解消、花壇づくりが始まった

- ・ その他にも、公民館入口のスロープ幅拡大、下駄箱の移動、エアコンの設置、棚の取り付け、カーテン交換、座布団交換、外側トイレの自動消灯・開閉設備導入、同トイレ入口をコンクリート廃材で整地、公園側外壁に防護網付きの時計を設置、屋外の水道蛇口を1口から2口へ、自転車置き場に落下防止の柵設置、防犯灯設置、ゴミステーションの網をボルト止め、ゴミステーション No.を夜でも見える蛍光色へ、等、多くの改善事例を確認できた。

今回の訪問を通して、次のような効果を確認できた。

- ・ 生活者目線で公民館内外を整備・改善している。
- ・ 公民館が使いやすくなって、人が集まりやすくなった。
- ・ 交流が増え、活動が活性化した。

—5. 小野市の自治会役員女性参画推進事業の事例 (小野市ホームページより)

小野市では、自治会役員女性参画推進事業補助金制度を創設しています。

補助金申請のご案内

補助対象

次の1から4すべてに該当する自治会(町)

1. 構成世帯数が概ね20世帯以上である。
2. 役員を選出が住民の総意により総会等で決定されている。
3. 自治会規約や総会での議決等により、2名以上の女性が継続的に登用されるしくみができている。
4. 自治会役員に2名以上の女性を登用している。(当該年度)

補助金額

1 自治会に年額10万円

さらに、登用された女性役員のうち1名以上が、自治会長(区長)、副会長(副区長)、会計の場合は、加算10万円とします。

年度に1回の申請とし、平成27年までは毎年申請することができます。

補助金の使途

特に限定しません。自治会運営の一部に充ててください。

自治会の一般会計を管理されている口座に振り込みます。

申請等に必要な書類

- 改正前の自治会規約(ない場合は不要)
- 新たに制定した自治会規約(新規作成、改正された場合)
- 総会等の議決内容がわかる議事録のコピー
(女性の役員を毎年登用するしくみ)
- 自治会総会資料(規約改正、予算、役員名等が確認できる書類)

※該当する書類をご提出いただきます。

調査結果要約：

小野市では、このような制度を創設することによって、女性が自治会活動に参画しやすい環境が整備されている。小野市役所に電話調査したところ、宇都宮市に比べ、人口規模10分1(約5万人)で自治会数89の小野市では、この半年で7件に補助金を交付、女性役員は14名増えた。他の自治体でも参考になるのではないかな。

—6. 質問項目6. 今後の課題と抱負

A氏：

(1) 高齢化対策

- 団塊世代が13年後には75歳に達し、特養施設には3分の1しか入れない。そうすると地域で面倒を見なければならない。
- 老人クラブの会員を増やす必要がある。場所・雰囲気・人づくりが必要。人材の回転が速いと活性化する。万年会長のいる老人クラブは衰退し消えていきやすい。
- 買物難民対策

(2) 後継者の育成

- 会長就任と同時に進める必要がある。会長の任期は5~7年が良いのではないかな。永年勤続表彰も組織活性化の上で障害となっているのではないかな？
- シルバー大卒生卒業者の活用。卒業生は問題意識を持って地域に戻ってくる。
- 新規退職者には、監査・ボランティア活動が適している。

B氏：

- ・ 後継者に引き継いでいきたい。
- ・ 一つの組織だから、盛り上げたい。参加してくれ、盛り上げてくれと思う。人が多く出てくること（参加率）が大事。
- ・ 継続的にやるには、同好会のような自治会を補助する組織があれば、協力してくれる人が出てくるのではないか。義務感でやっているようでは長続きしない。
- ・ 年寄りが増えている。老人会などの公民館を使った活動も増やしていく必要がある。

C氏：

(1) 役員選出が課題である。

- ・ 進んでやってくれる人がおれば良いが、まずありえない。長くやるとマンネリ化する。
- ・ 自治会は仲良しクラブではいけない。違う意見の人が役員になってもかまわない。
- ・ 推薦委員会が決めるところもあるが、次は推薦されない場合もある。
後継の会長になるような人が副会長になってもらいたい。
- ・ 自分はこの人、あの人と思ってやっている。自分も後1年位で会長を辞めたい。しかし、現実には後継者がいないと辞められない。

(2) 自治会活動への参加促進（体育祭、総会）

- ・ 総会では意見を言ってもらいたい。
- ・ この地域では過去、地域のボスのような人がいて、何事もその人の意見で決まっていたこともあって、意見を言う人が少なかった。
- ・ 自治会の加入率の80%はこのままで良い。

その他：余り抱負は無い。そんなにあったら疲れてしまう。肩の力を抜いてやるしかない。本当は自治会の人は何を望んでいるか知りたいが、役員を頼まれた以上、任されたと思って自分の判断でやっている。

D氏：

- ・ 高齢者のネットワーク作り、安心安全を一番に考えたい。
- ・ 自治会役員の世代交代。例えば、当地区の連合自治会の中には、80歳代の新人自治会長すらいるが、いかがなものか。自分の後継者も育成していかなければならない。

Eさん：

- ・ これから高齢者が増えて行くので、見回りをきちんとしていく。
- ・ 高齢者の外出を増やすために、高齢者のお茶会を月一回程度取り組みたい。

Fさん：

- ・ 班長会の活性化。みんなに自由に意見を言ってもらい、良いものは残し、改善できるところは改善していく。
- ・ 風通しの良い自治会運営。
- ・ 自治会も時代とともに変わっていく。自治会は、自治会員のものであって役員のものではない。独断はまずい。みんなの意見・要望を大事にして相談しながら進めて行く。

Gさん：

- ・ 高齢化対策。
- ・ 公民館の活用促進（塾・熱中症予防）。
- ・ 後継者育成。

調査結果の要約

- ・ 男性会長、女性会長を問わず、高齢者対策と後継者育成の必要性を指摘している。うち、1人の会長から、シルバー大学卒業生は問題意識を持って地域に戻ってくるので活用を検討すべきと指摘があった。
- ・ 自治会も時代とともに変わっていくので組織の若返りが必要である。また、みんなの意見・要望を大事にして相談しながら進めて行くべきだと女性会長から指摘があった。

ー 7. 追加調査・・・シルバー大学校卒業生の地域活動への参加

自治会長インタビュー時の指摘で、卒業生の活用を検討すべきと指摘があった。これを受けて、当研究会では、シルバー大学校訪問と卒業生3名を取材した。

調査結果の概要

- ・ 目的：高齢社会を豊かに過ごすためにふさわしい知識や教養を学び、地域社会の活性化を促す人材を養成することで、高齢者の健やかで生きがいのある地域社会を築く。
- ・ 中央校では、毎年320名入学、男女比はほぼ半々。2年間で320時間学習する。
- ・ クラブ活動が盛んで、47クラブあり、複数のクラブへの参加者も多い。
- ・ 2年ほど前の地域活動に関する学習教材を確認したところ、民間外部講師による一般的な講義であった。地域社会の活性化を促すという目的には、物足りない内容であった。⇒自治会のような地域活動を紹介する生きたカリキュラムを使うことで地域活動参加への動機付けを高めることも必要と思われる。
- ・ 卒業後、在学中の仲間と趣味の活動を継続するケースは多いが、自治会内の仲間づくりはあまり進んでいない、活動の会場探しに苦労していることがわかった。なお、自治会活動への参加度合いについては、更に調査が必要で有るが、今後の地域の活性化への期待は大きい。

以上の調査結果から、地域社会の活性化を促す人材を養成するうえで、シルバー大学校との連携・協力も課題と考えられる。

ー 8. 現状の分析と課題のまとめ（インタビュー・現地訪問・追加調査・小野市の事例から）

現状の分析結果：

1. 男性自治会長も女性の活躍への期待は大きい。
2. 女性自治会長の取材・現場訪問を通して、次のような自治会活動活性化の効果を確認できた。
 - (1) 豊かな生活者目線で気付きがあり、新しい視点での取り組みが生まれる。
 - (2) 親しみやすく、話しかけやすいので、みんなが意見を出しやすくなる。
 - (3) それが意見の吸い上げ、実行につながることで自治会が自分達のもの、身近なものと感じるようになる。
 - (4) 子育てなどを通して地域における人との繋がりがあり、活動の輪を広げやすい。さらに、介護などの知識が豊富にある女性が自治会役員を担うことで、高齢者支援、防災・減災、子どもの見守り、などへの活躍が期待できる。
3. 自治会長長期歴任の背景には後継者育成の立ち遅れがある。
4. 地域社会の活性化を促す人材を養成するうえで、シルバー大学校との連携・協力も課題と考えられる。
5. 小野市の事例では、自治会役員女性参画推進事業補助金制度を創設し、女性が自治会活動に参画しやすい環境を整備するためにインセンティブを与えて、既に効果が出ている。

そこから浮かび上がった課題は、次のとおりである。

1. 自治会活動活性化における女性役員の効果をいかにPRするか。
2. 新しい視点を持った後継者をどう育成するか。
3. シルバー大学校との連携・協力。

4 施策事業の提案

[2 提案の目標]で、自治会における女性役員の割合を30%以上に増やすことを提案した。この目標達成のために、直前の項で述べた課題に沿って、以下の提案を行う。

(1) 課題1の「自治会活動活性化における女性役員の効果のPR」、課題2の「新しい視点を持った後継者をどう育成するか」

施策1：宇都宮市自治会連合会主催の新任自治会長研修会、等において、女性自治会役員の活動の効果を積極的にPRする。

前ページの現状の分析と課題のまとめで女性役員が自治会活動活性化のうえで、どのような直接的な効果があるかについては既に述べたが、そのことを知っている人は少ない。新任の自治会長に情報を提供し、効果を具体的に述べ、場合によっては現地を視察してもらい、翌年度以降の役員編成に反映してもらう必要がある。

自治会長は数年間継続することを踏まえると、上記のPR活動は少なくとも5年間ぐらいは繰り返す必要がある。これによって、新しい視点を持った女性役員の割合を徐々に増やすことが可能となる。同時に、組織の若返り・後継者選びの候補対象の拡大、また、家庭に続く身近で、今後、ますます重要性が高まる自治会における男女共同参画事業の進展、等の間接的な効果も期待できる。

PRの場として、市民大学や、みやシニア活動センター主催の「シニア世代の地域デビュー講座」なども考えられる。今、各種講座は多いが、ほとんどが知識・教養・健康づくり、など、個人に役立つものになっている。地域社会貢献への意欲を高め、潜在意識を変え、それこそ地域デビューのきっかけになる講座も増やす必要があるのではないかと考える。

施策2：女性役員の割合を増やすための補助金制度を創設し、時限付きでインセンティブを提供する。

自治会の活動を充実させるには資金が必要である。小規模自治会にとっては、小野市の事例にあった補助金10万円、20万円は貴重であり、女性役員を増やすうえで大きな効果があると思われる。実際、宇都宮市に比べ、人口規模10分の1で自治会数89の小野市では、この半年で7件に補助金を交付、女性役員は14名増えた。

(2) 課題3の「シルバー大大学校との連携・協力」

施策1：自治会の地域活動を紹介する生きたカリキュラムを使うことで地域活動参加への動機付けを高める。この時、女性自治会長の所属自治会の活動を教材として使用する。

[3 現状の分析と課題]の－8. 項でシルバー大大学校卒業生の地域活動への参加について述べたが、「地域社会の活性化を促す人材を養成することで、高齢者の健やかで生きがいのある地域社会を築く」という目標は、自治会の役割・目標で述べた「(中略)良好な地域社会を形成していくこと」とも目標を共有していることから、協働は可能と考えられる。

また、女性会長の所属する自治会の活動を教材にすることによって、男性には潜在的な意識を変えてもらうこと、女性には自分も参加出来そうだという感触を持ってもらうことが期待できる。もちろん、在学中に身につけたクラブ活動を地域に広めることは地域の活性化に充分役立つ。比較的空いて、使用料も安い公民館を利用して仲間を増やすことは、地域の活動活性化にも大いに効果があると思われる。

取材源・参考文献

- ・ 自治会長インタビュー7回（平成25年9月6日～10月11日）場所：公民館、他。
- ・ シルバー大大学校卒業生インタビュー3回（平成25年10月22日～27日）
- ・ 平成24年度自治会定期総会資料 7点
- ・ 宇都宮市自治会連合会 平成25年度 新任自治会長研修会資料
- ・ 第3次宇都宮市 男女共同参画行動計画リーフレット
- ・ シルバー大大学校リーフレット
- ・ 兵庫県小野市ホームページ <http://www.city.ono.hyogo.jp/p/1/8/17/01/>